

# 天理教 江南支部だより

発行先  
発行日  
発行責任者  
発行住所

江南支部  
立教189年5月1日  
九里正昭  
甲賀町神1750番地の1  
5月号 N0308

## ひのきしんデー追加会場

甲南組

(社福) やまなみ工房

草刈り、除草、清掃

5月16日9:00~11:30

(雨天 屋内清掃)

信楽組

紫香楽病院

草刈り、除草、清掃

期日：未定 雨天中止

「おやつひろし」

一寸さづけは出してある。なれど、貰  
た處が、さづけの元が分からん。何を  
して居るやら分からん。日々取り扱  
て居る者は分かりてある。さづけとい  
う話の理を十分治めたら、一時一つの  
理はある。さづけさえ貰たらそれでよ  
い、というようではならん。

(明治31・3・30)

## 江南支部

### 〈ようぼくの集い〉ご案内

期日：令和8年6月6日(土曜日)

会場：甲龍分教会 甲南町池田3555番地

講話：テーマ「おつとめ」

講師：岡田 悟先生(甲賀大教会役員)

参加費：300円

プログラム

9:30 受付

10:00 おつとめ

開講あいさつ

講話

11:30 閉講あいさつ

拝礼

※椅子には限りがありますので必要な方はご持参ください。

※岡田先生の著書 絵本「もとのり」が販売されます。1冊1,000円  
です。

# だけど有難い

深谷善太郎著

## 「から」を「の」に

先月、おさづけを受けた方の一人に、ガンで手術を受ける予定の方がおられました。その後、有難いことに、ガンが消えて手術しなくてもよくなったというので大変喜んで、夫婦でおちば帰りをされました。私が教祖殿の当番をしているときに、参拝に来られました。

当初は「手術が成功するように」「なんとか教祖年祭まで生かしてほしい」と、願っていたとのことでした。それが、ガンそのものが消えるというご守護を頂いて、勇みに勇んでおられました。

では、その方はどんなことをして鮮やかなご守護を頂いたのか。あれをしたからこうなる、というような理屈ではないのです。親神様が、たすけてやりたいとの親心いっぱい、ご守護を下さるからたすかったのです。

親は子供には甘いのです。親元のことを里と言いますが、里という言葉は

砂糖に通じます。砂糖は甘い。甘いから「おやさ」と言うのです。親神様は、私たち人間に甘いのです。たすけたいお心でいっぱいなのです。

病気や事情で悩んでいるときに、教会に相談すれば、「おちば帰りをしましょう」「別席を運びましょう」と言われるかもしれませぬ。あるいは、修養科を勧められるかもしれませぬ。いろんな声を聞くでしょう。しかし、なぜ別席を運んだら病気が治るのか。なぜ、おちばに帰ったらご守護を頂けるのか。決して理屈で答えが出ることはありません。けれども、実行してご守護を頂いた人がいる。それは、親神様が受け取ってくださいるからなのです。

ツバメの雛が、親鳥から与えられる餌を大きな口を開けてなんでも受け入れるように、私たちも子供のころは、親から出される食べ物を「これは肉になるのか、骨になるのか」などと考えることなく食べていたはず。同じように、教会から神様の用向きで言われたことを素直に受ける。これが、大切な姿勢です。

その際、邪魔になるのが自分の「殻」です。殻を破るにはどうすればいいか。私は「から」という言葉を使わないことだと思えます。「暑いから、参拝に行くのはやめよう」「忙しいから、教会へは行けないなあ」「病気だから」「歳だから」……このような「から」は、いくらでも見つかるのです。「暇を持って余してしようがないから、教会でも行こうか」。こんな人は、まずいませぬ。

みな忙しいでしょうし、誰でも病気であればつらい。けれども、それを言いたしたら、教会へ行くことはできないのです。

「教会が便利な所がないから」「教会に寄っている人と気が合わないから」私たちはつい「から」を使っています。

私は、この「から」を「の」に変えたらいいと思うのです。

「遠いから」は「遠いのに、足を運ぶ」。「病気だから」は「病気なのに、参拝する」。こんなふうには、「から」を「の」に変えてみると、親神様に

受け取っていただく種になることに気づきます。

これは、素直になる手掛かりだと思います。



## 『みちのとも』より「すいすい話 先の姿を楽しみに、精いっぱい」

岡崎裕一 大岡分教会長

「人が好くから神も好くので。人が惜しがる間は神も惜しがる。人の好く間は神も楽しみや」（『稿本天理教教祖伝逸話篇』八七「人が好くから」）

8年前の会長就任以来、このお言葉を頼りに通ってきたような気がします。もともと信者の少ない教会だったので、なんとか盛り立てようと妻と話合い、平成30年、こども食堂「岡ちやんち」を始めました。地域に800枚のチラシを配ったものの、来てくださったのはたった一組の親子。そんなスタートでした。それでも、先述の教祖のお言葉を胸に「子供たちに楽しんでもらおう、親御さんに喜んでいただく」と夫婦で力を合わせてきました。

やがて、ボランティアの方や野菜などを持って来てくださる方が増えるとともに、家庭に問題を抱えた子供たちが毎日、教会に来るようになりました。その子たちの愚痴を聞いたりするなかで、ある姉妹が「おっちゃんとおばちゃんの子になる。天理教のこと教えて！」と言ってくれたときのうれしさは、いまも忘れられません。

また、心を病んだ女子高生が、菓の過剰摂取で酩酊状態となり、電話でたすけを求めてきたこともあります。教会が「頼れる居場所」になってきたように思いました。

今年の能登半島地震の際、「岡ちやんち」につながる方々に支援を呼びかけたところ、ワゴン車と軽トラックに積みきれないほどの物資が寄せられました。さらに、「一番信用できる『岡ちやんち』に、義援金を託したい」と、まとまった額を手渡されました。おかげでボランティアの方や子供たちと一緒に被災地へ駆けつけ、炊き出しや運動会、縁日などのイベントを開催することができました。

教会は、月次祭のおつとめの手もそろわない状況ですが、地域の大人から子供まで大勢が出入りする「にぎやかな教会」になりました。親神様・教祖が先を楽しみに、必要な時に必要な人や物をお与えくださっているように思います。

教祖は「神の方には倍の力や」と教えてくださいます。この心強いお言葉に、どんな「先の姿」をお見せいただけるのかワクワクしながら、精いっぱい力を入れて通りたいと思います。

### 6月江南支部ひのきしん

(社福) 甲賀学園 児童養護施設  
鹿深の家

今年も6月から10月にかけて草刈りを中心にひのきしんを行います。暑い時期に入りますが、一人も多くご参加ください！

第1回目

6月5日 (金) 午前9時～11時30分  
雨天中止

草刈り機、草刈りカマご持参ください！

4月18日 教祖誕生祭

## 228回目のご誕生寿ぐ

存命の教祖の228回目のご誕生日を寿ぐ  
教祖誕生祭は18日、中山大亮様を祭主に  
本部神殿、教祖殿で執り行われた。

祭典に引き続き、「よろこびの大合唱」  
が中庭で催され、教祖を慕う道の子たち  
の歌声が高らかに響いた。



婦人会第108回総会

婦人会第108回総会は、教祖誕生祭の翌  
19日、本部中庭を主会場に開催された。

天理教婦人会では、「ひながたをたど  
り 陽気ぐらしの台となりましょう」の  
成人目標のもと、活動方針に「おつと  
めの大切さを学び 真実の心で勤めよう」  
「日々に教えを實踐し おつとめを勤め  
る人を増やそう」を掲げている。

当日は、国の内外から約3万5千人の  
会員が親里に参集した。また、記念行  
事として支部ごとに「支部の集い」が  
持たれたほか、前日の午後5時から、  
四つの会場で講演会が行われた。



国内外から約3万5千の会員が神苑に参集した。

中山はるえ  
婦人会長あいさつ



婦人会第108回総会の席上、  
中山はるえ婦人会長があ  
いさつに立たれ、一人ひ  
とりが陽気ぐらし世界の  
実現、つとめ完成のため  
の要員であることを自覚  
し、おつとめの大切さを  
心に治め、伝える努力を  
させていたただこうと呼び  
かけられた。



5月支部にをいがけデー

5月28日午前9時

拠点教会 信楽分教会 信楽町江田565番地